

東京都障害者支援施設デジタル通信

令和4年2月 Vol.6

～ 支援業務の効率化と施設利用者のQ O L向上に向けて ～



東京都

東京都では、令和2年度より「障害者支援施設デジタル技術等活用支援モデル事業」を実施しています。本誌では、少しでも多くの施設に**デジタル機器の有用性**について知っていただき、デジタル技術の導入についてご検討いただけるよう、本事業の取組内容等について紹介させていただきます。

第6回のテーマ

- 1 デジタル機器の紹介 (**Wi-Fi環境の整備とモバイル通信端末**)
- 2 令和2年度モデル施設の紹介
 - ・施設の**課題と導入機器**
 - ・機器導入による**活用方法の見直し**
 - ・機器の**習得度向上**に向けた取組
 - ・**通信環境とICT機器の一体的な整備**の効果
- 3 アドバイザーからの講評



1 デジタル機器の紹介（Wi-Fi環境の整備とモバイル通信端末）

施設に導入した各機器の情報をWi-Fi通信環境を通じて、モバイル通信端末等に送信することで、時間や場所に関わらず利用者の状況確認や支援員間の連携ができます。

主な機能

- ・ **Wi-Fi環境整備**：施設内の各機器から、支援員室やモバイル通信端末に情報を送ります。
- ・ **モバイル通信端末**：時間・場所を問わず利用者の状況確認や支援記録の作成等を行います。

見込まれる導入効果

- ・ **情報の一元管理**により、**正確な情報に基づく質の高い支援**が可能となります。
- ・ 情報確認や支援記録の作成等が容易になり、**シームレスな情報共有**を実現します。

機器活用事例

- ・ Wi-Fi環境を通じて、見守り支援機器の情報や見守りカメラの映像を**支援員室のモニターやモバイル通信端末等に伝送**します。
- ・ モバイル通信端末により、**デイルーム等において**、支援記録の作成や利用者の状況確認、支援員間の連絡調整を行います。

Wi-Fi環境の整備で、どこに居ても状況把握が可能に



機器活用にあたっての留意事項

- ・ デジタル機器使用にあたり、Wi-Fi環境は必ず必要になるため、機器設置箇所の電波状況や既存設置機器との規格の整合性など、**必ず事前調査を実施した上で設置**する必要があります。
- ・ モバイル通信端末は利用シーンや目的に合わせて、**画面の大きいタブレット端末か、持ち運びのしやすいスマートフォンにするのかを選択**する必要があります。

2 令和2年度モデル施設の紹介

施設概要



- ・ 運営法人 社会福祉法人 聖ヨハネ会
- ・ 施設名称 富士聖ヨハネ学園
- ・ 所在地 住所：山梨県南都留郡忍野村忍草2748
- ・ 定 員 施設入所支援 122名
生活介護 154名
短期入所 8名



分類	導入機器名称	台数	施設の課題	導入機器に期待する効果
見守り 支援機器	眠りSCAN	40台	・利用者の重度・高齢化により、ターミナル期における見守り支援の機会が増え、支援員の負担が増加している。	・ バイタルデータの活用 による支援力向上と支援員室からの見守り支援による支援員負担を軽減する。
	A.I.view.Life	20台	・夜間、利用者が覚醒した際、利用者が転倒していることに気が付くことができず、対応に遅れが生じるケースがあった。	・利用者の起き上がり、 転倒などの行動を検知し、事故防止 につなげる。 ・ 記録内容を確認し 、事故発生原因の分析を行い、 再発防止 に努める。
情報共有 端末	iPhone SE	10台	・支援記録は、紙のメモをExcelファイルに書き起こす作業が生じており、支援記録作成業務の負担が大きい。	・時間や場所を問わず利用者の状態の確認や支援記録の入力をできるようにすることで、 記録業務の効率化 を図る
	iPad	10台	・強度行動障害特性のある利用者による転倒や自傷など、居室内事故の発生。	・ 支援員室以外の場所からも見守り支援機器からの情報を確認し 、居室内の事故防止につなげる。
通信環境 整備	CISCO Systems AIR-AP2802I-Q-K9C	45台	・Wi-Fi環境は事務室周辺しか整備されておらず、無線通信機能を有するデジタル機器の導入は難しい状況。	・各機器をネットワーク上でつなぐことで、 情報を一元管理し 、支援業務の効率化と緊急時における迅速な対応をインフラ面で支える。

支援体制（オペレーション）の見直し

機器導入前



- ・利用者の**重度・高齢化に伴う、夜間巡視回数**の増による支援員負担の増加
- ・支援記録は、支援員の記憶を基に、支援員室のパソコンで作成。

機器導入後



- ・睡眠センサー及び見守りカメラの導入により、支援員室等から利用者の睡眠状況やバイタル状況を確認。
- ・モバイル通信端末の導入により、記録の作成が必要な事項はその場で記録を作成。

支援員の負担軽減

- ・**利用者の状態が見える化**し、「転倒しているのではないか」等の懸念からくる、精神的負担からの解放。
- ・**夜間の巡視回数減による**、見守り支援業務の効率化。

利用者支援の向上

- ・機器により把握した利用者の睡眠状態や行動パターンに合わせた、**日中活動支援や事故防止対策の検討**。
- ・夜間巡視回数減による、利用者の良質な睡眠の確保。

主な取組内容

①支援体制の見直し

【訪室ルールの見直し】

・A.I.Viewlifeからの情報で体動がなく、「眠っている」と画像で判断された場合には見回りを行わないなど、**機器の組み合わせによる判断を行う訪室ルールを策定**。

【モバイル通信端末の活用】

・スマートフォン及びタブレット端末の導入により、支援記録の入力や利用者の状況確認を時間・場所問わずできるようにした。

【支援内容の見直し】

・利用者の睡眠状態や行動パターンに合わせて、**日中活動の内容を検討する等**、支援内容の見直しを実施。

④活用方法の見直し

【機器設定の見直し】

・睡眠状況の誤検知やアラームの誤作動等の問題があったため、利用者の特性に合わせ**通知設定を見直した**。

【運用ルールの見直し】

・画像センサーから取得した利用者の動きから、ろう便の兆候と判断して声がけをする等、**排泄支援にあたっての利用者の意識付け**を行った。

【機器の追加購入の検討】

・機器を使用している支援員とそうでない支援員で、支援負担の差が生じたため、今後は**全支援員にモバイル通信機器の導入を検討**する。

②支援現場との調整

【プロジェクトチームの結成】

・ICT機器導入にあたり、その必要性や導入機器を検討するため、施設長、支援課長、看護師、事務管理室、支援員による**ICTモデルプロジェクトチームを設置**

【定例会の開催】

・プロジェクトチームは**月2回の会議を開催**し、課題の洗い出し、対応機器の検討、期待する効果、目標を議論した。

【課題の抽出と議論】

・機器導入後も、ICT機器の使用にともなう課題については、**プロジェクトチームがその都度吸い上げ、議論したうえで対策を講じた**。

③機器導入（活用）

【電波調査の実施】

・**事前に電波調査等を実施**し、効率的なアクセスポイント設置を実現する手段も講じた。

【役割に応じた機器選定】

・**携帯性に優れるiPhoneと閲覧性に優れるiPadを状況に応じて使い分ける**ことにより、最適な見守りを実現することができるようにした。

【活用度の底上げ】

・職員間で活用度の差をなくすため、機器を活用して良かった点の情報共有を図る等、**全員が使いこなせるようになるための取り組みを継続して実施**した。

総 評

【機器習得度の底上げに成功】

デジタル機器の導入にあたっては、従前の支援方法が大幅に変更となるため、**エンドユーザーとなる現場支援員の理解と機器を活用するためのスキルが課題**となる。

富士聖ヨハネ学園では、施設内で機器活用にあたって効果があった点の情報共有を図る等、機器活用の習熟度の平準化と現場支援員のモチベーションアップにつながる取組を**継続して実施した**。

その結果、右上図「導入予定機器への期待と習得効果」のとおり、「導入する機器を一人でも操作できる」と考える支援員が57.4%から76.2%に増加するとともに、「導入機器を、時間をかけずに活用できる」と考える支援員が43.3%から77.8%に増えおり、**取組内容の成果が出た**と考えられる。

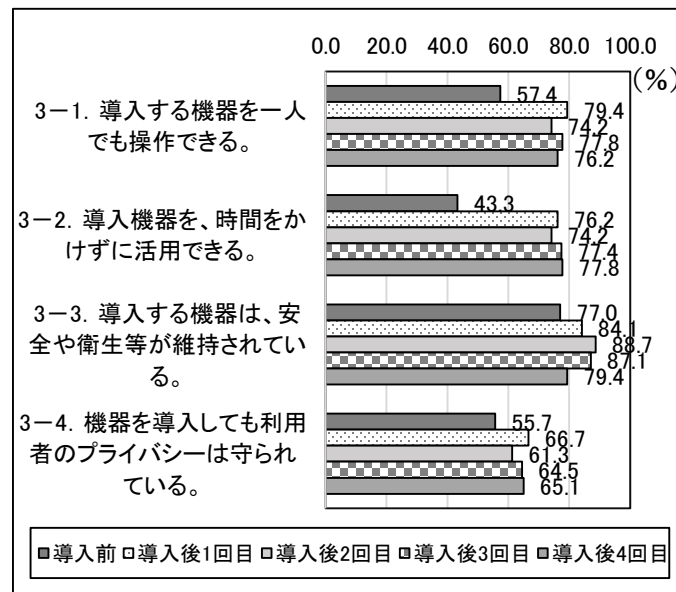
また、「機器を導入しても利用者のプライバシーは守られている」の質問でも、守られていると感じている職員が増加しており（55.7%⇒65.1%）、**見守りカメラ設置についても一定の理解が得られた**ことがうかがえる結果となった。

【機器の導入効果】

富士聖ヨハネ学園では、見守り支援機器とモバイル通信端末、Wi-Fi環境の整備を一体的に実施した。

右下図の「機器の導入効果」のアンケートでは、いずれの設問においても機器導入前に比べて機器導入後の方が前向きな回答をしている支援員が多く、これらの機器を一体的に導入したメリットを現場支援員が一定程度享受できたと言え、**本モデル事業の目的が達成された**と考えられる。

【導入予定機器への期待と習得効果】



【機器の導入効果】

